

# 会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

## 発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

発行責任者 横地常広

編集責任者 深澤恵治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号

TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722

ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

P1～P3 8th Congress of Asia Association of Medical Laboratory Scientists (AAMLS) ならびに

16th Asia-Pacific Forum of Medical Laboratory Sciences (APFMLS) 参加報告

P4 都道府県技師会 各地での取り組み (山口県編)

## 8th Congress of Asia Association of Medical Laboratory Scientists (AAMLS) ならびに 16th Asia-Pacific Forum of Medical Laboratory Sciences (APFMLS) 参加報告

日臨技 国際活動WG委員長 濤川 唯



8th Congress of Asia Association of Medical Laboratory Scientists (AAMLS) ならびに 16th Asia-Pacific Forum of Medical Laboratory Sciences (APFMLS) は、令和7年4月10日(木)～13日(日)に台湾台北市にある Nangang Exhibition Center で社団法人 中華民國醫事檢驗師公會 全國聯合會 (TAMT) 主催で開催されました。

学会テーマの Precision, Innovation, and Legacy in Laboratory Medicine を主題に、日本をはじめ、韓国、フィリピン、マレーシアなど、AAMLS加盟13カ国を含む世界中の臨床検査技師が集まり、これからの臨床検査について議論されました。日本からは横地会長、小松専務理事を代表として、国際シンポジストには京都大学の松尾英将先生とJAMTの深澤専務理事、国際学生フォーラムには東京科学大学の檜垣里佳さん、そして一般演題(示説)発表10名の、総勢15名で参加しました。

4月10日のWelcome receptionでは台湾料理で歓迎していただき、アジア各国との久しぶりの交流が和やかにスタートしました。4月11日のオープニングセレモニーではTAMTのTe-Lung Tsai会長により学会の開催が華やかに宣言されました。シンポジウム1として Laboratory Developed Test Regulation in Asia が行われ、JAMTの深澤専務理事によりLDTの日本での現状とこれからの取り組みなどが発表されました。AAMLS BODミーティングには横地

会長、小松専務理事が出席されました。同日夜に開催されたGALAディナーでは台湾流の余興を満喫しながら、世界の皆様との親睦を深めました。4月12日のAAMLS総会では次期AAMLS代表選が行われ、韓国KAMTが選出されました。日本は引き続き treasurer(会計)として選ばれました。日台代表者会議も行われ、横地会長から、学会招待への感謝の挨拶と、2025年5月10日・11日に大阪で開催される第74回日本医学検査学会、および2026年の International Federation of Biomedical Laboratory Science (IFBLS) 学術大会の開催への協力を依頼しました。国際学生フォーラムは Innovative Applications of Artificial Intelligence in Medical Laboratories の演題の元、日本、台湾、韓国の学生が発表を行いました。午後からはラボツアーも行われ、日本からは6名が参加し、Chang Gung Memorial Hospitalの臨床検査室を見学しました。4月13日はシンポジウム5として The Role and Importance of Interdisciplinary Collaboration in Medical Laboratories が行われ、小松専務理事が座長を務め、松尾先生が発表されました。台湾、タイのシンポジストとの議論が繰り広げられました。

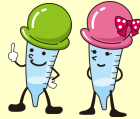
4日間の学会を充実のものに終え、全員無事に帰国いたしました。AAMLS学会では各国の知見や技術を共有することで、臨床検査技師としての役割とその責任の再確認ができたと考えます。

今回AAMLS学会では2026年9月23日～9月27日に千葉県で開催されるIFBLS学会のブースを設け、学会情報提供も行いました。非常に多くの方から反響をいただき、千葉県ではさらに多くの世界中の臨床検査技師との国際交流、学術交流が行われるものと考えます。日本の皆様も積極的な参加をお待ちしています。



2026年IFBLS学術大会もPR

ここからは参加された皆様からの感想を紹介します。



## 国際シンポジウム

松尾 英将（京都大学 人間健康科学系専攻）

2025年4月10日～13日に開催された「The 8th Congress of Asia Association of Medical Laboratory Scientists (AAMLS)」に、日本臨床衛生検査技師会（以下、日臨技）のご支援のもと参加させていただきました。このような機会をいただき、心より感謝申し上げます。これまでAAMLSへの参加経験はありませんでしたが、日臨技の会報で拝見する参加報告に触れ、いつか自分も参加したいと思っていました。今回、大学院生（庄子）のポスター発表に加え、私自身もシンポジウムでの発表の機会をいただき、大変光栄でした。

私が登壇したシンポジウムは、「The Role and Importance of Interdisciplinary Collaboration in Medical Laboratories」というテーマで、日臨技の小松専務理事に座長を務めていただきました。発表では、臨床検査における研究・教育推進のための学際的コラボレーションについて、これまでに実践してきた他分野との連携の事例やその意義、ネットワークの広げ方について紹介しました。英語での30分間のスピーチは初めての経験でしたが、何とかやり遂げることができ、終了後に日本のメンバーの皆様に拍手で迎えていただいた時は、感無量でした。

学会期間中は、セレモニーやGalaディナー、ラボツアーなどを通じて、台湾・韓国・タイ・インド・インドネシアといったアジア各国の参加者と交流することができました。中でもホスト国である台湾の方々の温かいおもてなしが印象に残っています。ラボツアーでは、約4,000床を有する林口長庚記念病院を見学しました。臨床検査技師（台湾では「医事検査師」と呼ばれます）は約270名在籍しており、検査室の廊下にはスタッフの写真、学会発表ポスター、発表論文数やインパクトファクター平均値の推移などが掲示されており、興味深いものでした。

また、日本からの参加メンバーとの交流も非常に有意義でした。普段はホームページや会報でしか拝見できない横地会長、深澤専務理事、小松専務理事ともざっくばらんにお話することができ、日臨技をより身近に感じることができました。他大学の先生方や病院の臨床検査技師の方々との意見交換も大変刺激的で、今後の研究教育活動への意欲がさらに高まりました。改めまして、今回このような貴重な経験をさせていただいたことに、厚く御礼申し上げます。



## 国際e-ポスターセッション(ポスター発表)

庄子 皓太（京都大学大学院 医学研究科）

この度、第8回アジア臨床検査技師会議および第16回アジア太平洋臨床検査科学フォーラム(The 8th Congress of Asia Association of Medical Laboratory Scientists in conjunction with the 16th Asia-Pacific Forum of Medical Laboratory Science)にポスター発表者として参加するという貴重な機会をいただき、心より御礼申し上げます。さらに光栄なことに、Best Poster Awardをいただきました。



本学会は、私にとって初めての国際学会への参加であり、さまざまなバックグラウンドを持つ臨床検査技師の方々と直接交流する貴重な機会となりました。参加されていた方々の、日々の業務や研究に対する真摯な姿勢と情熱に触れ、大変刺激を受けました。多様な信念や価値観を持った検査技師の方々と意見を交わす中で、私自身も、自己研鑽を怠らず学び続ける姿勢の重要性を改めて認識することができました。これは、今回の学会参加における最も大きな収穫であると感じております。

私はまだ臨床現場での実務経験はありませんが、今後は単に業務を遂行するのではなく、常に探究心を持ち、検査技術や医療の質のさらなる向上に貢献できる人材を目指してまいります。

最後に、貴重な経験をさせていただいたJAMTおよび関係者の方々に心より御礼申し上げます。

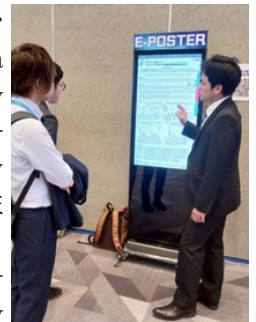
屋良 朝仁（国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター）

2025年4月10日～13日に台湾の台北で開催された、第8回AAMLS (Asia Association of Medical Laboratory Scientists) / 第16回APFMLS (Asia-Pacific Forum of Medical Laboratory Sciences)の学術集会に参加してきました。

本学会のテーマは「Precision, Innovation, and Legacy in Laboratory Medicine」とされ、アジア各国から様々な分野の先進的な研究結果や、検査室での取り組みなどの発表やシンポジウムがありました。

私は、日本臨床衛生検査技師会の発表者募集に応募し、ポスター発表を行いました。発表形式は、デジタルサイネージでの展示でした。興味のあるポスターを検索したり、タッチ操作により細かなグラフを拡大したりして閲覧できる点が魅力的でした。ポスター発表は口頭発表と違い、質問者と直接会話する形でコミュニケーションが取れるため、個人的には英語での対応でも緊張せずに行えました。口頭発表よりハードルの低い発表方法なので、国際学会に興味がある方にはおすすめです。

また今回、シンポジウムで質問に挑戦するなど、普段使わない英語での学術的なコミュニケーションにも僅かですが自信を付けることができました。





私の専門である生理検査に関する演題数は決して多くありませんでしたが、各国の超音波検査の事情などを知ることができました。特に、韓国の大学病院においては、臨床検査技師でもアメリカのARDMS(American Registry for Diagnostic Medical Sonography)資格取得を積極的に進めており、最新の知識や技術の向上を図っている点に大変興味を持ち、感銘を受けました。

これらは、私の検査技師としての経験に大変良い刺激とモチベーションアップになる良い機会となりました。日本国内の学会だけでなく様々な国際学会でより良い発表をしたいと考えております。

2026年9月には、第75回日本医学検査学会学術集会と同時開催で、第36回IFBLS(International Federation of Biomedical Laboratory Science)学術集会が、千葉の幕張メッセで開催されます。日本で開催される貴重な機会なので、興味のある方は是非ご参加ください。

末筆ではございますが、この度はこのような貴重な機会を与えてくださった関係者の方々に心より感謝申し上げます。

## ラボラトリーツアー

宮尾 章汰 (大阪府済生会中津病院)

この度、2025年4月10日から13日にかけて台湾・台北市で開催された8th Congress of Asia Association of Medical Laboratory Scientists (AAMLS)において、E-Poster発表者として参加させていただきました。

今回は、2026年9月23日～27日に開催予定の36th IFBLS World Congress of Biomedical Laboratory Scienceに向けた広報活動に加え、台湾・桃園市に位置する林口長庚記念病院(Chang Gung Memorial Hospital, Linkou)でのラボラトリーツアーにも参加し、非常に貴重な経験をさせていただきました。ここでは、主にラボラトリーツアーについてご報告いたします。

林口長庚記念病院の臨床検査部門は13の専門部門から構成されており、200名を超える臨床検査技師が勤務する、台湾でも有数の大規模な医療機関です。中でも特に印象に残ったのは、「Laboratory Center of Precision Medicine」と呼ばれる主に遺伝子検査を担当する部門であり、NGS(次世代シーケンサー)をはじめとする最先端機器が数多く整備されており、そのスケールと先進性に圧倒されました。

また、臨床検査部門全体で学術・教育活動にも非常に力を入れており、部署内にはこれまでに受賞したポスター発表が多数掲示されていて、非常にハイレベルで意欲的な環境であることがうかがえました。

学会期間中は、アジア各国から多くの先生方が参加されており、Gala Dinnerやラボラトリーツアーなどを通じて、さまざまな国の先生方と直接交流させていただき、国際的なネットワークを広げる貴重な機会となりました。

最後になりますが、今回の貴重な機会をいただきました

JAMT、TAMTの関係各位ならびに、会期中に大変お世話になりました横地常広会長、小松京子先生をはじめとする関係者の皆様に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

## 国際学生フォーラム

檜垣 里佳(東京科学大学 3年)

第8回AAMLSならびに第16回APFMLSにて、“Innovative application of artificial intelligence in medical laboratories”というテーマで国際学生フォーラムに参加する機会をいただきました。AIには元々興味があり、大学の授業や勉強会を通してその仕組みやプログラミング、医療への応用について学んできました。しかし、これまで臨床検査分野にフォーカスしてAIを学ぶ機会意外にも少なく、今回のフォーラムは私にとってとても新鮮なものになりました。

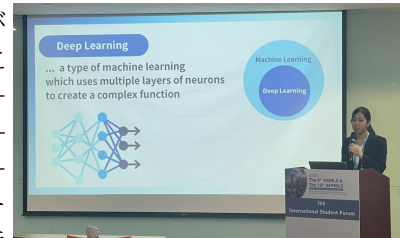
発表に向けて準備をする中でも自分の中の知識を整理することができまし、実際にフォーラムで他の学生の皆さんの発表を聞くことで大いに勉強になりました。特に、具体的な研究についての話は面白く、質疑応答なども楽しむことができました。参加していた学生は皆さん非常に英語が堪能で、発表もとても上手で、とても感銘を受けました。

学会での発表ははじめてだったため不安が大きかったのですが、学生の皆さんも座長や発表を聞きにきてくださった方々もとても温かく、リラックスして発表をすることができました。また、質問もたくさんいただけて発表に興味を持ってもらえたことが感じられ、嬉しかったです。いくつか答えられなかった質問もあったので、今後しっかりと勉強していこうと思いました。

フォーラム以外の時間は、発表を聞きにいたり、ポスター発表を見たり、企業のブースを回ったりなどして楽しむことができました。専門性の高い内容は理解が難しい部分もあったものの、臨床検査分野での課題や今行われている研究について知ることができ、とても勉強になりました。また、スライドの構成、発表の仕方などの技術的な点についても学びが多くありました。会場には企業のブースがたくさん並んでおり、直接企業の方に製品や研究の話聞くという、普段はできないような体験もできました。

今回の学会で知り合った先生方には様々な働き方があることを教えてもらい、将来について考えるきっかけになりました。国籍や働き方を含め、多様なバックグラウンドを持った方々と交流することができ、非常に充実した4日間になったと思います。

これまでも研究や学会発表に興味がありましたが、今回の学会参加を通して改めて研究や学会の面白さを知ることができました。今回得た学びを今後の原動力として今後も臨床検査への学びを深めていきたいです。また、今回知り合った方々とのご縁も大切に、交流を続けていけたら幸いです。



# 都道府県技師会 各地での取り組み(山口県編)

全国47都道府県それぞれに臨床（衛生）検査技師会があります。各都道府県技師会では日臨技と連携した活動のほか、地元の医療関連団体や自治体、時には企業とも協力して地域に根差した独自の活動を行っています。今回は、山口県技師会が県が開催する地元の進学フェアに参加した様子を紹介いたします。

## 「2025県内進学・仕事魅力発信フェアinやまぐち」 に参加して 一般社団法人 山口県臨床検査技師会 常務理事 田中 純子

2025年2月14日に山口市の維新百年記念公園・維新大晃アリーナにおいて「2025県内進学・仕事魅力発信フェアinやまぐち」（以下進学フェア）が開催されました。進学フェアは県内高校生を対象に山口県が独自に行なっている企画で、地元の地域産業を支える人材の育成および若者の定住促進を図るため、県内大学や専門学校の紹介、企業及び仕事内容の紹介を通じて、地元の魅力の再発見につなげてもらうことを目的としています。来場予定者数は高校1年生、約1,800名ということでした。

「仕事紹介」コーナーには33職種のブースが出展しており、医療職としては薬剤師や看護師、リハビリなどの11職種が参加し、山口県臨床検査技師会は今年で10回目の参加となりました。

「臨床検査技師のお仕事紹介」として、高校生にもイメージしやすいように臨床検査技師の仕事内容の資料を壁に貼り、お仕事体験として顕微鏡と超音波体験を企画しました。顕微鏡体験は「がん細胞を見てください！」が目を引き、集まってくれた生徒さんに実際の細胞診の標本を見てもらいながら、正常細胞とがん細胞の違いを説明し、検体の採取から標本の作製、病気の診断に至るまで臨床検査技師がどのように関わっているのかを紹介しました。超音波体験は病院で超音波検査を臨床検査技師が行なっていることが多いこと、臨床検査技師が病変の見落としがないよう注意深く体の中を観察していることを紹介しました。そして実際に生徒さんにプローブを持ってもらい、果物ゼリーを見ていただきました。中身が見えないゼリーの中身がモニターにきれいに写し出されると、「すごい!!」、「何で!」とナタデココの断面をみる生徒さんの目の輝きに、日頃の疲れも吹き飛び、心が癒や



仕事紹介コーナーの様子



YouTube 撮影



[https://youtu.be/ABToR5TXhP8?si=h4\\_YSM3uHcK9eyAL](https://youtu.be/ABToR5TXhP8?si=h4_YSM3uHcK9eyAL)

配信された動画は1から

されるようでした。担当者が選ぶリアクションが良かったゼリーベスト3は、1位：トマト、2位：ナタデココ、3位：ブドウだそうです。

寒波の影響が懸念されましたが、当日は快晴で高校生の若さと担当者の熱気で会場は盛り上がり、臨床検査技師会のブースも高校生が途切れることなく、100名の生徒さんに訪れていただきました。そしてなんと！主催者側から「YouTubeに動画をあげたいので撮影とインタビューしても大丈夫ですか？」と声がかかりました。たくさんの医療職種の中から選ばれての撮影でした。ぜひ、ぜひ観てください！

このフェアを通じて、[臨床検査技師]の認知度が上がり、憧れの職業として目指す方が増えることを願っています。進学フェアは臨床検査技師をアピールするには大変良い機会です。今後も継続して参加していきたいと考えています。

（編集後記）ゴールデンウィークも終わり、日差しに新緑が映える季節となりました。連休でリフレッシュされた方も多いのではないのでしょうか。4月から新しい環境でスタートを切った方々も、少しずつ慣れてきた頃かもしれません。この爽やかな季節のように、私たち臨床検査技師もフレッシュな気持ちを忘れずに、日々の業務を通じて、より一層、患者さんの健康と医療の質の向上に貢献していきましょう。（直田）